

中嶋加代子

(熊本大)

目的 アトピー性皮膚炎の治療法の1つとして小児科領域では除去食療法を行うことが多い。今回は、「和食に戻す食事療法(除去食療法)」によってアトピー性皮膚炎の症状が改善され、その後も食事療法を継続し、順調な発育を遂げている5歳児の食事(除去食)について栄養学的に検討した。

方法 某病院小児科で食事療法によるアトピー性皮膚炎の治療を受け、症状が改善した後も引き続き自宅で食事療法を継続している5歳児16名を調査対象とした。調査方法は患児の母親による記述調査とし、期間は平成4年2~3月の連続7日間である。

結果 患児の食物摂取の程度は、男児の場合全員、植物油・鶏卵・牛乳が第2段階以上であり、第4段階(完全除去)の児もいた。女児の場合、植物油は約半数が完全除去、鶏卵は全員が第2段階以上、牛乳は第2段階の児が54.5%であった。栄養素等摂取状況は、1人1日当たりの平均摂取量を第五次改定日本人の栄養所要量と比較した結果、男児女児ともエネルギー平均摂取量が所要量よりも少なかった。脂質平均摂取量が所要量の約1/2(男児:53.6%、女児:44.3%)になっているのは、患児が植物油を完全除去または部分除去しているためである。たんぱく質摂取量は、鶏卵を制限しているにもかかわらず、男児は所要量よりも多く、女児は所要量と同程度であった。カルシウム摂取量は男女とも所要量より少ない傾向にあった。鉄摂取量は男児が所要量を上回り、女児は所要量と同程度であった。ビタミンはAとCの摂取量が非常に多かった。これは、患児が主食としても類やカボチャを利用する場合があること、間食に果物を摂ることによると思われる。